

高校生監督作が3本入選 「PFF アワード 2025」入選作品発表！ 10代限定、映画祭無料招待キャンペーンも実施

平素よりお世話になっております。9月6日(土)より、国立映画アーカイブにて開催となる、「第47回ぴあフィルムフェスティバル 2025」のコンペティション部門「PFF アワード 2025」の入選作品が決定しました。

「PFF アワード」は、1977年にスタートした、映画監督を目指す若者たちの自主映画コンペティションです。現在大ヒット公開中の『国宝』の李相日監督、今年の大島渚賞を受賞した『ナミビアの砂漠』の山中瑤子監督、5月のカンヌ映画祭を沸かせた『ルノワール』の早川千絵監督など、これまでに190名を超えるプロの映画監督を輩出してきました。

「PFF アワード 2025」の応募数は、史上2番目となる795作品。中学生、高校生らまだ見ぬ若い才能に出会うべく、昨年から実施している10代の出品料無料化の効果もあり、10代の応募作品が前年比約1.5倍に増加しました。

その中で、17名のセレクション・メンバーによる、**約4か月間の選考を経て、決定した入選作品は22本。平均年齢は23.8歳、高校生監督による作品も3本入選**するなど、昨年に続き、若年層の躍進が目立つ結果となりました。

全22本の入選作品は、9月のPFF東京会場で2回、11月開催の京都会場で1回のスクリーン上映に加え、今年もオンラインでの同時配信を予定。グランプリなど各賞は、9月19日(金)の表彰式にて発表されます。

また、若年層の観客と作り手の出会いの場を創出すべく、「第47回ぴあフィルムフェスティバル 2025」にて、**10代限定の無料招待キャンペーンを実施いたします。**「PFF アワード 2025」のほか、今後発表予定の「特集企画部門」を含む、**全プログラムが対象**となります(事前申込制)。

今回入選した、22名の新人監督たち、そして次代を担う10代に向けた新たな施策を、ぜひご紹介いただけますよう、ご検討の程よろしくお願いいたします。また、映画祭のプログラム、最終審査員の発表は、8月上旬を予定しておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

■「PFF アワード 2025」入選作品 (22本)

*作品名五十音順。年齢は応募時、職業(学校名)は制作時のものです。

『あの頃』(11分) 監督：戸田遼太 (18歳/埼玉県出身/埼玉県立松山高等学校 映像制作部)

『アンダー・マイ・スキン』(20分) 監督：細川巧晴 (21歳/富山県出身/京都芸術大学 芸術学部 映画学科)

『カクレミノ』(35分) 監督：澤田 晴 (22歳/福井県出身/長岡造形大学 視覚デザイン学科)

『空回りする直美』(44分) 監督：中里ふく (20歳/東京都出身/東放学園映画専門学校 映画制作科)

『黄色いシミ』(32分) 監督：野村一瑛 (29歳/東京都出身/フリーター)

『傷ついた天使』(96分) 監督：田辺洸成 (21歳/福岡県出身/青山学院大学 総合文化政策学部)

『Caravan』(59分) 監督：庄司 皓 (23歳/宮城県出身/同志社大学)

『屈折の行方』(66分) 監督：鴨林諄宜 (25歳/大阪府出身/フリーター)

『紅の空』(26分) 監督：瀬川 翔 (17歳/東京都出身/三田国際科学学園高校)

『CROSS-TALK』(26分) 監督：原田 捷 (24歳/神奈川県出身/会社員)

『郷』(93分) 監督：伊地知拓郎 (27歳/鹿児島県出身/映画監督)

『人生はいつだって HARD だ』(34分) 監督：笠原崇志 (30歳/宮城県出身/俳優)

『名前をつけるのは、これから』(39分) 監督：直林水稀 (29歳/福岡県出身/会社員)

『ノイズの住人』(48分) 監督：アンドレス・マドルエニョ (30歳/メキシコ出身/武蔵野美術大学大学院 映像・写真コース)

『PEAK END』(120分) 監督：シン・チェリン (26歳/韓国出身/京都芸術大学 芸術学部 映画学科)

『BRAND NEW LOVE』(84分) 監督：岩倉龍一 (22歳/神奈川県出身/東京造形大学 造形学部 映画・映像専攻)

『僕はガタロウ』(18分) 監督：久保地穂乃 (24歳/東京都出身/フリーター)

『マイ スモール ワールド』(11分) 監督：丸岡優月 (21歳/愛知県出身/名古屋学芸大学 映像メディア学科)

『宮沢さんは剥がさせないっ!』(12分) 監督: 金澤誠人 (16歳/東京都出身/東京都立工芸高等学校 マシンクラフト科)
『ロ-16号棟』(11分) 監督: 井上優衣 (21歳/東京都出身/武蔵野美術大学 造形構想学部 映像学科)
『惑星イノウエ』(54分) 監督: 鈴木大智 (22歳/東京都出身/東京造形大学 造形学部 映画・映像専攻)
『ワンダリング・メモリア』(18分) 監督: 金内健樹 (35歳/東京都出身/フリーター)

<入選作品データ>【入選数】22本 【年齢】平均: 23.8歳/最年少: 16歳/最年長: 35歳
【作品時間】平均: 43.5分/最短: 11分/最長: 120分

<応募全体データ>【応募数】795本 【年齢】平均: 30.3歳/最年少: 13歳/最年長: 72歳
【作品時間】平均: 29.7分/最短: 1分/最長: 150分

「PFF アワード 2025」入選作品発表にあたって (ディレクター 荒木啓子)

大変お待たせ致しました! 4か月間、795本の応募作品から映画への情熱を浴び続け、映画を生み出す奇跡のような瞬間を感じる日々を過ごしました。

ご応募いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

17名のセレクションメンバーと延べ3日間語り合い、17の違う視点からの言葉を溢れるほど抱きながら、最終的に、本年は、以下、22作品の入選を決定致しました。

この22作品22監督は、16歳から35歳まで、バックグラウンドも制作体制も多様です。共通するのは「映画」をつくる意志。彼らの生み出す映画を体験し、その先も見守っていただけることを願い、9月の東京、11月の京都、と2つの都市で開催する「第47回ぴあフィルムフェスティバル 2025」での上映を行います。

そして、ここで最もお伝えしたいのは、ボーダーにあった作品です。「選ぶ」という苦行を最も感じるのが、こうした作品を思うときです。

言葉にならないことばを伝える『藪に惹かれ』、スタイリッシュさが群を抜く『HYANG-SU』、主演男優賞の声も高い『勤労者は今日も睡眠を求める』、意表をつかれる『サンタクロースたちの休暇』、その言葉が、声が、胸迫る『魔物の水音』、現代の課題を誠実に提示する『わたしたちのいるところ』、エンターテインメントを見事に追及した『ロックンロール』、素晴らしい歌に魅入る『翳りゆく部屋』、切実な心、寄り添う姿勢に打たれる『36.3』、大変な力作『私の横たわる内臓』、更にその世界が深まる『霞始めてたなびく』、ふたりの記憶を確認する新しいラブレター『その眼が見ていた光』...いずれも心揺さぶられます。

映画を生み出すということに果敢に挑戦なさった皆様に、改めて感謝と敬意を捧げます。

そして、自主的に生み出される映画たちと、ひとりでも多くの新たな観客との出会いを実現すべく、映画祭を開催します。ぜひ是非、いま、最先端の自主映画に遭遇してください。

■ 10代限定! 「第47回 PFF」無料招待キャンペーン (事前申込制)

若年層の方に、多種多様な映画体験をしてもらうことを目的に、10代限定で、映画祭のお好きなプログラムに、ペアで無料ご招待します。10代であれば、映画をつくっている人、これからつくりたいと思っている人、映画をみるのが好きな人、誰でも参加可能です。
(事前申込制/各回先着10組20名予定)

【ご招待対象者】 2006年4月1日以降生まれの方。(1名まで同伴可。どちらかが10代ならOK。保護者の同伴も可)
※当日、年齢を証明できるものをお持ちください。

【ご招待プログラム】 9月6日(土)~20日(土)の映画祭開催期間中に上映する全てのプログラム。

【申込方法】 映画祭サイト (<https://pff.jp/47th/>) より、PFFのLINE公式アカウントに友達登録する。
8月上旬より、申込フォームをご案内予定。

★画像素材はこちらからダウンロードをお願いいたします。

<https://www.dropbox.com/scl/fo/kw2lcrvbq3dpod3d642nz/AMcQd6xyy9nt8CFwIu1KgQA?rlkey=hu2lwr5p63h80i1jd8jl00e2&st=7c2sf8xh&dl=0>

「第47回ぴあフィルムフェスティバル 2025」

日程: 9月6日(土)~20日(土) 会場: 国立映画アーカイブ ※月曜休館

【映画祭サイト】 <https://pff.jp/47th/> ※7月2日(水)18時よりオープン

■本情報のご紹介を頂けますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

◎お問い合わせ: マジックアワー TEL 03-5784-3120 / staff@magichour.co.jp

一般社団法人 PFF TEL 03-5774-5296

